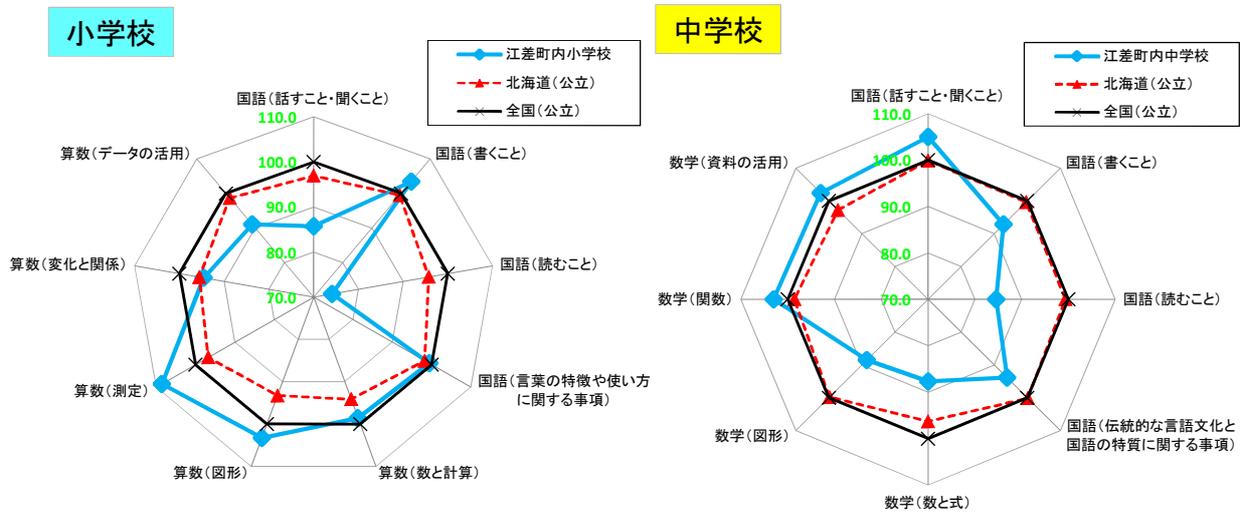


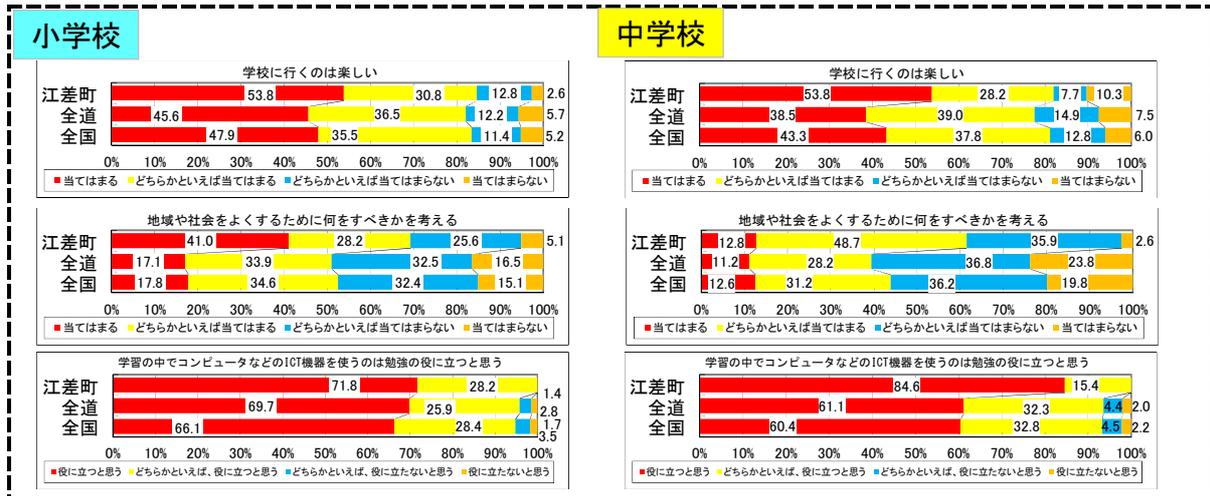
■江差町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:39人）（中学校数:2校、生徒数:39人）

【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
町内の各小学校において、通いたい学校づくりに努め、児童の実態を踏まえた授業改善を進めたことにより、国語の1つの領域と算数の2つの領域で全国・全道を上回ったと考えられる。	町内の各中学校において、通いたい学校づくりに努め、生徒の実態を踏まえた授業改善を進めたことにより、国語の1つの領域と数学の2つの領域で全国・全道を上回ったと考えられる。
町内の各小学校において、郷土を愛する心や未来を切り開く態度の形成を目指した教育活動を行ったことにより、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えるの項目で肯定的に回答する児童の割合が全国・全道を上回ったと考えられる。	町内の各中学校において、郷土を愛する心や未来を切り開く態度の形成を目指した教育活動を行ったことにより、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えるの項目で肯定的に回答する生徒の割合が全国・全道を上回ったと考えられる。
町内の各小学校において、ICT機器のよさを活用した授業を実践したことにより、学習の中でICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うの項目で肯定的な回答をした児童の割合が全国・全道を上回ったと考えられる。	町内の各中学校において、ICT機器のよさを活用した授業を実践したことにより、学習の中でICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うの項目で肯定的な回答をした生徒の割合が全国・全道を上回ったと考えられる。

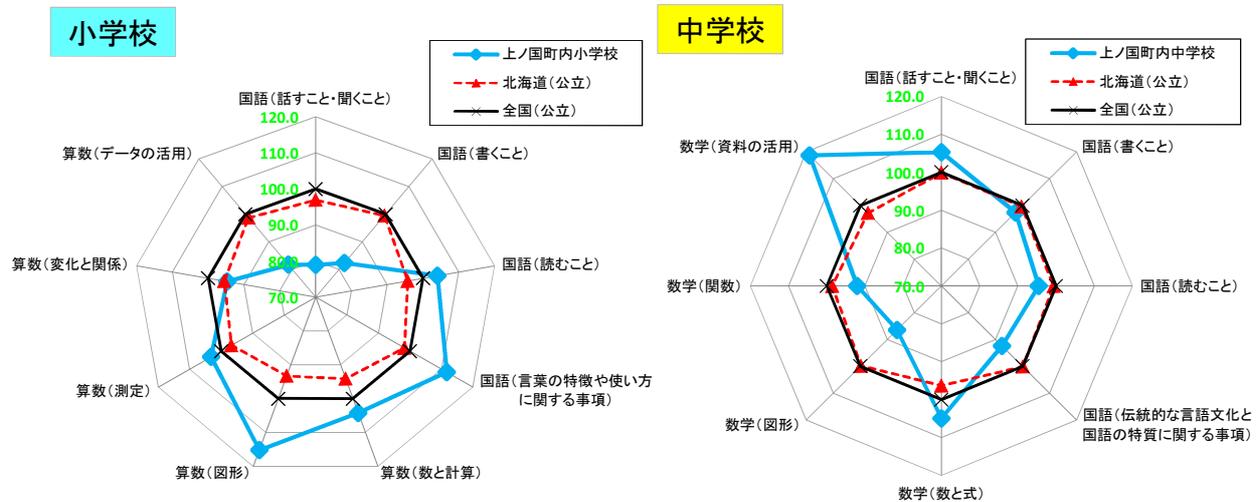
【江差町の学力向上策】

- ◎ 望ましい学習習慣や生活習慣の確立に向けた家庭への啓発及び家庭との連携
- ◎ 各種調査の結果分析及びICT機器の活用等による授業改善の方策を検討する「江差町学力向上対策会議」等の開催
- ◎ 小中一貫教育及び小中連携教育「トライアングル・サポート」の継続と充実

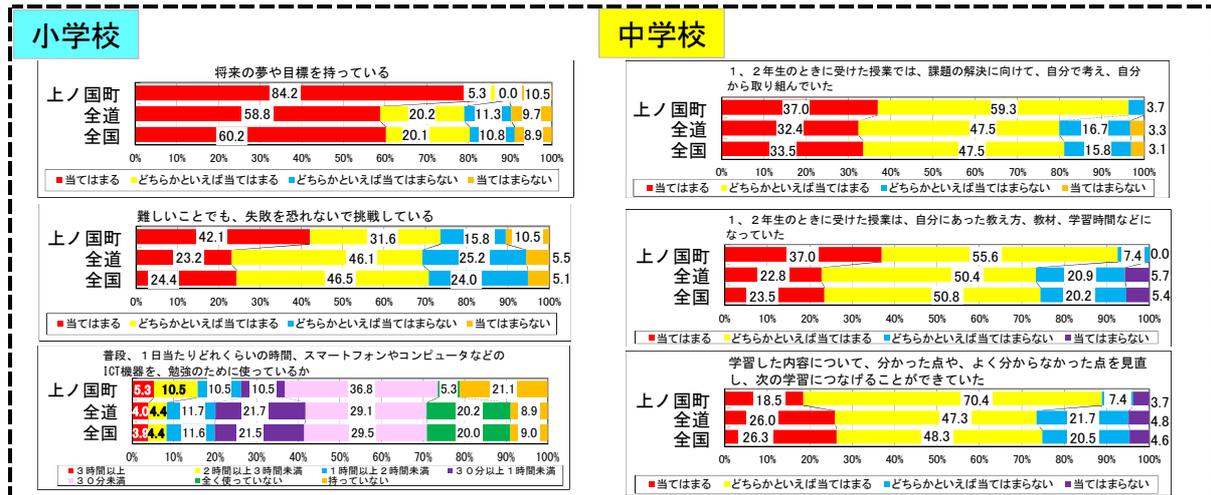
■上ノ国町内の状況及び学力向上策（小学校数：3校、児童数：19人）（中学校数：1校、生徒数：27人）

【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
町内の各小学校において、全国学力・学習状況調査等を活用した要因分析による児童の実態を踏まえた授業改善を進めたことにより、国語の1領域1事項、算数の3つの領域で全国・全道の平均正答率を上回ったと考えられる。	町内の中学校において、全国学力・学習状況調査等を活用した要因分析による生徒の実態を踏まえた授業改善を進めたことにより、国語の1つの領域、数学の2つの領域で全国・全道の平均正答率を上回ったと考えられる。
町内の各小学校において、児童の自らの可能性を引き出す教育活動を行ったことにより、将来の夢や目標をもったり失敗を恐れないで挑戦したりすると肯定的に回答する児童の割合が全国・全道を上回ったと考えられる。	町内の中学校において、教師が教える授業から生徒が主体的に学ぶ授業への転換を目指し授業改善に取り組んだことにより、課題の解決に向けて自分で考え自分で取り組んだり、受けた授業が自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと感じたり、学習した内容について分かった点やよく分からなかった点を見直し次の学習につなげたりする生徒の割合が全国・全道を上回ったと考えられる。
町内の小学校において、ICT機器の活用を進めたことにより、ICT機器を勉強のために1時間以上使っていると回答した児童の割合が全国・全道を上回ったと考えられる。	

【上ノ国町の学力向上策】

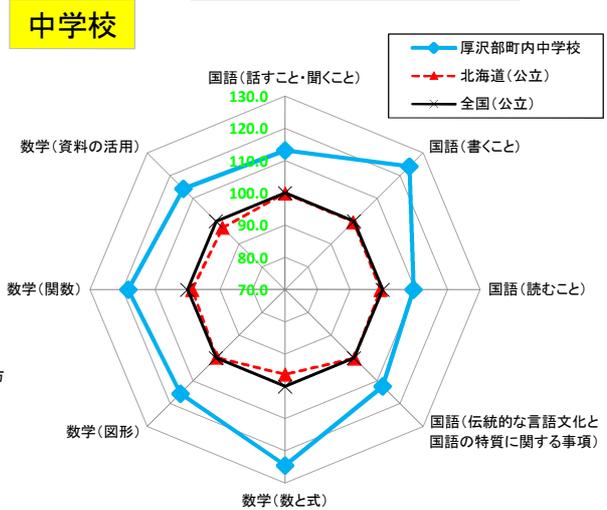
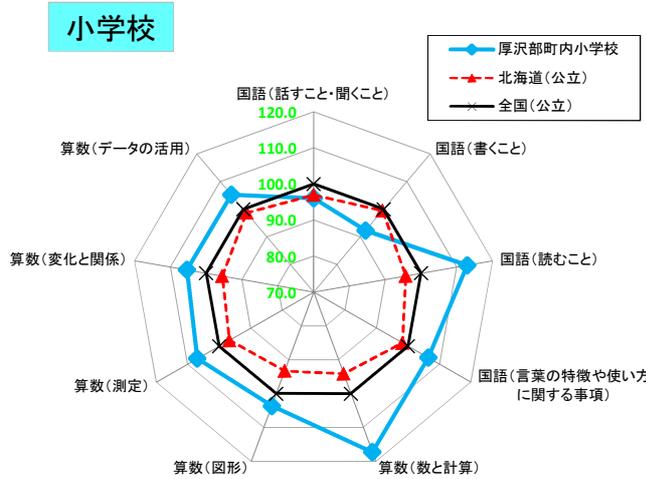
- ◎ 学校におけるTT、少人数指導、特別支援教育支援員等や地域における英語塾等を活用した学習支援
- ◎ ICT機器の効果的な活用による考えの共有など協働的な学びの実現
- ◎ 保育所・小学校・中学校・高等学校が連携・接続した児童生徒の実態把握と授業交流の実施

■厚沢部町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:25人）（中学校数:1校、生徒数:24人）

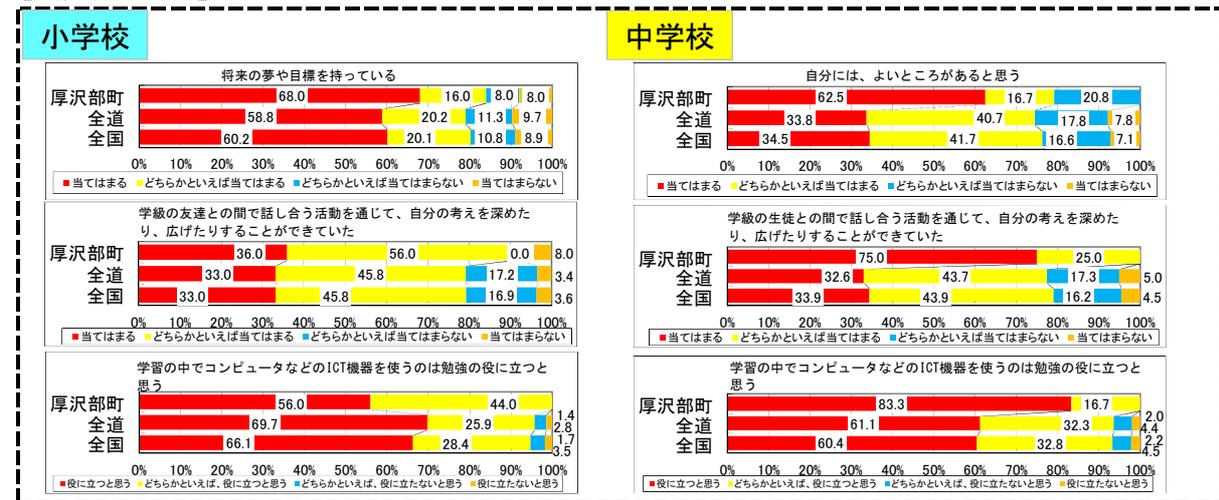
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	67	74
算数・数学	75	68



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

**小学校**

町内の各小学校が、全国学力・学習状況調査等を活用した要因分析による児童の実態を踏まえた授業改善を進めたことにより、国語の1領域1事項と算数の全領域で全国・全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

町全体で、自らのよさや可能性を認識したり他者と協働したりする場を教育活動に取り入れたことにより、将来の夢や目標をもつことや考えを深め広げることができた肯定的に回答する児童の割合が全国・全道を上回ったと考えられる。

町全体で、ICT機器の活用を進め、児童の個別最適な学びの実現に向けて取り組んだことにより、学習の中でICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと肯定的に回答する児童の割合が全国・全道を上回ったと考えられる。

**中学校**

町内の中学校が、全国学力・学習状況調査等を活用した要因分析による生徒の実態を踏まえた授業改善を進めたことにより、国語の全領域・事項と数学の全領域で全国・全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

町全体で、自らのよさや可能性を認識したり他者と協働したりする場を教育活動に取り入れたことにより、自分にはよいところがあると感じることや考えを深め広げることができた肯定的に回答する生徒の割合が全国・全道を上回ったと考えられる。

町全体で、ICT機器の活用を進め、生徒の個別最適な学びの実現に向けて取り組んだことにより、学習の中でICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと肯定的に回答する生徒の割合が全国・全道を上回ったと考えられる。

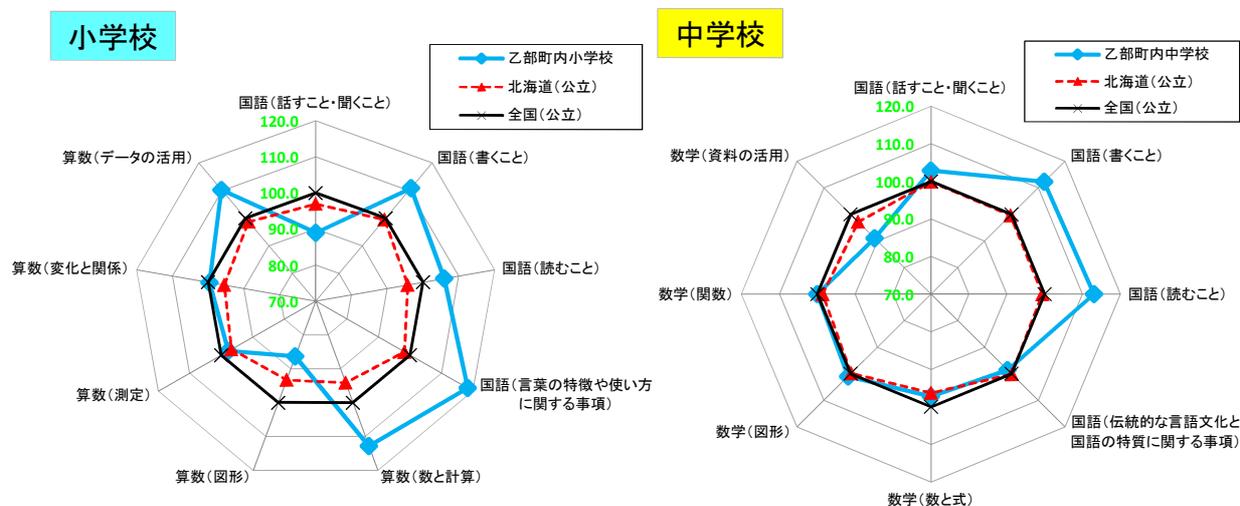
【厚沢部町の学力向上策】

- ◎ 全国学力・学習状況調査やチャレンジテスト、単元テストの検証結果に基づく授業改善の推進
- ◎ GIGAスクール構想による1人1台端末の効果的な活用による個別最適な学びを保障する授業の実現
- ◎ 各種調査結果の引継ぎや学校スタンダードの共有等の小中学校間の円滑な接続による確かな学力の育成

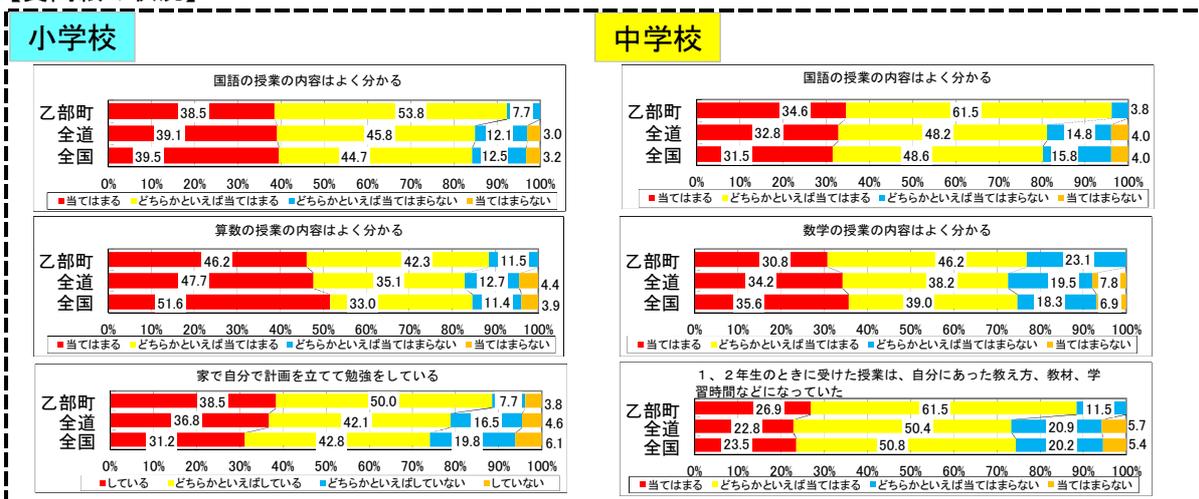
■乙部町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:26人）（中学校数:1校、生徒数:26人）

【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの（市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
町内の各小学校において、少人数指導の充実による学力向上に向けた授業改善を進めたことにより、国語の2領域1事項、算数の2つの領域で全国・全道の平均正答率を上回ったと考えられる。	町内の中学校において、生徒が学習に集中できる環境づくりや補足的な学習指導を進めたことにより、国語の3つの領域、数学の1つの領域で全国・全道の平均正答率を上回ったと考えられる。
町内の各小学校において、児童の実態を踏まえ必要とされる資質・能力の育成に向けた校内研修の充実を図ったことにより、国語や算数の授業の内容はよく分かったと肯定的に回答した児童の割合が全国・全道を上回ったと考えられる。	町内の中学校において、生徒の家庭学習の習慣を定着させ、意欲的に学習に臨む態度を育成したことにより、国語や数学の授業の内容はよく分かったと肯定的に回答した生徒の割合が全国・全道を上回ったと考えられる。
町全体で、「家庭学習のすすめ」等を作成し、学校と家庭が一体となって学習・生活習慣の定着に向けた取組を進めたことにより、家で自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合が全国・全道を上回ったと考えられる。	町内の中学校において、適切な学習評価に向けた校内研修を行ったことにより、1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと回答した生徒の割合が全国・全道を上回ったと考えられる。

【乙部町の学力向上策】

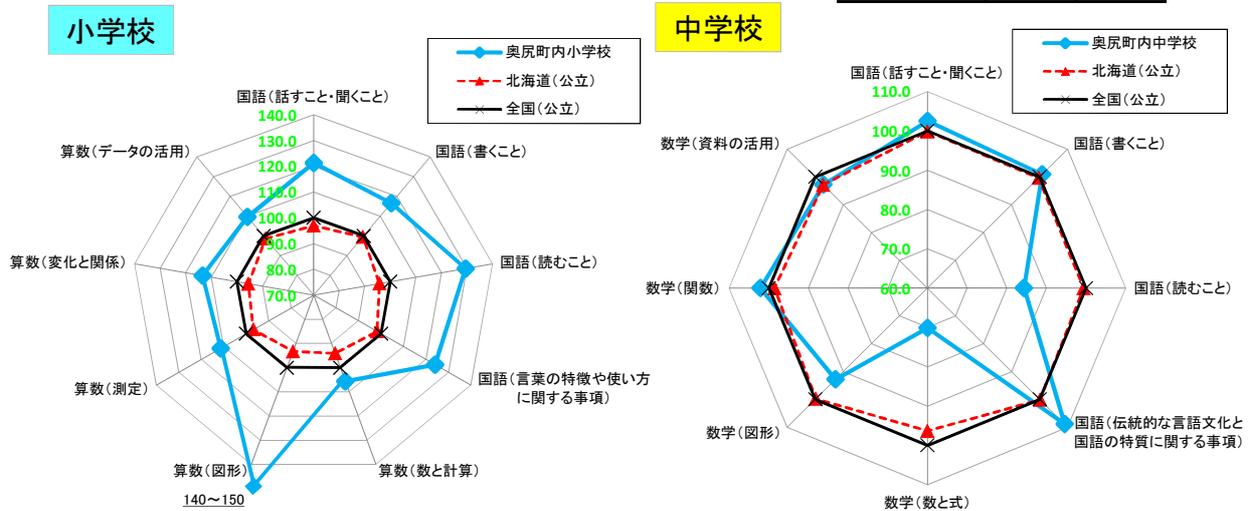
- ◎ 「乙部町学習・生活習慣向上プロジェクト」で作成の「家庭学習のすすめ」等を活用した学校と家庭が一体となった学習・生活習慣の定着の取組の充実
- ◎ ICT機器を活用した授業の継続や1人1台端末を活用した授業の推進及びデジタル教材活用による補充学習の充実
- ◎ 小・中・高等学校英語教育支援事業による系統的な英語教育の指導体制の充実

■奥尻町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:12人）（中学校数:1校、生徒数:11人）

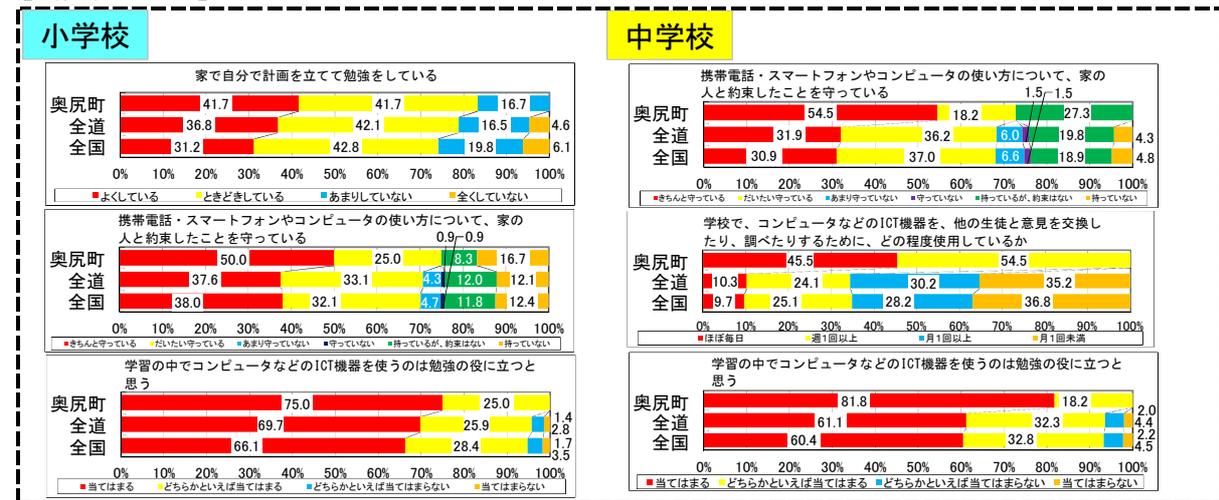
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	80	65
算数・数学	81	50



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

**小学校**

町内の各小学校において、個別最適な学びに向けた授業改善や家庭と連携した児童の主体的な家庭学習の取組を進めたことにより、国語の全領域・事項と算数の全領域で全国・全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

町全体で、家庭と連携した生活習慣の確立に向けた取組を進めたことにより、携帯電話等の使い方について、家の人と約束したことを守っていると肯定的に回答した児童の割合が全国・全道を上回ったと考えられる。

町全体でICT端末の効果的な活用による授業改善を図ったことにより、学習の中でICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと肯定的に回答した児童の割合が全国・全道を上回ったと考えられる。

**中学校**

町内の中学校において、個別最適な学びに向けた授業改善や補充学習の取組を進めたことにより、国語の2領域1事項、数学の1つの領域で全国・全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

町全体で、家庭と連携した生活習慣の確立に向けた取組を進めたことにより、携帯電話等の使い方について、家の人と約束したことを守っていると肯定的に回答した生徒の割合が全国・全道を上回ったと考えられる。

町全体でICT端末の効果的な活用による生徒の意見交換や調べ学習の充実を図ったことにより、学習の中でICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと肯定的に回答した生徒の割合が全国・全道を上回ったと考えられる。

【奥尻町の学力向上策】

- ◎ 家庭と連携した学習・生活習慣の一層の確立と主体的な学習態度の育成
- ◎ 小中連携によるICT機器の効果的な活用に向けた取組の推進
- ◎ 9年間で育てる児童生徒の姿を共有し、地域全体で学びを支援する取組の推進

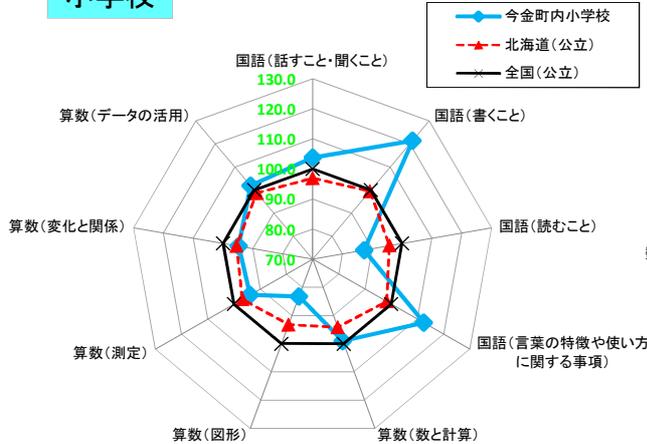
■今金町内の状況及び学力向上策 (小学校数:2校、児童数:38人) (中学校数:1校、生徒数:28人)

【教科全体の状況】

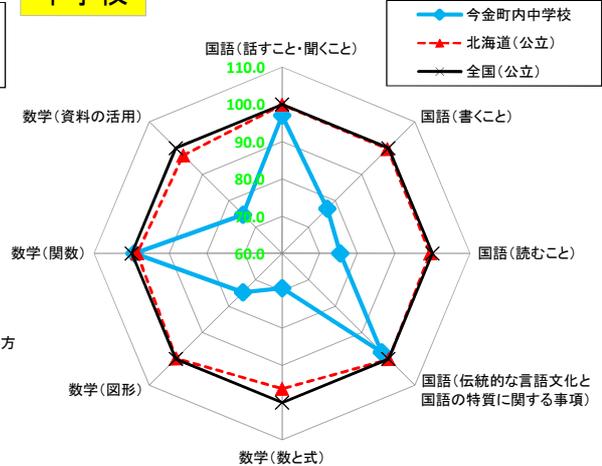
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

平均正答率	小学校	中学校
国語	70	57
算数・数学	68	44

小学校

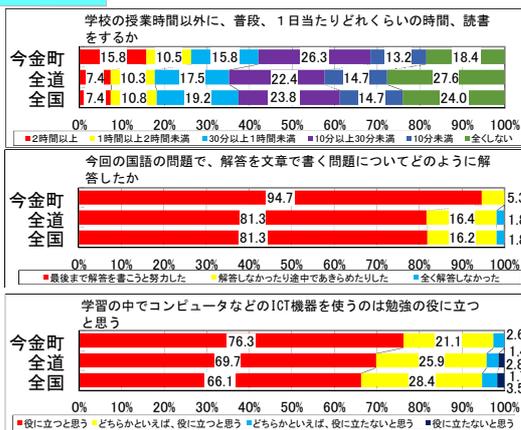


中学校

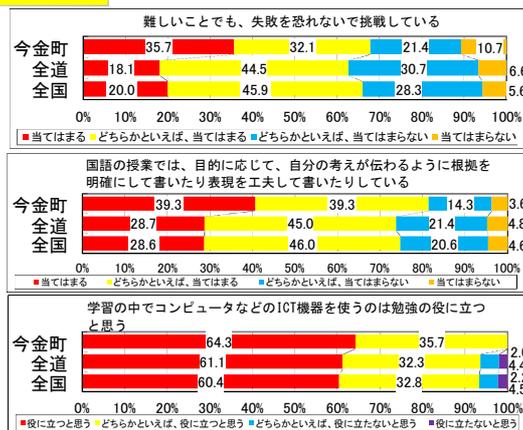


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
町内の各小学校において、全国学力・学習状況調査等の活用による要因分析で児童の実態を踏まえた授業改善を進めたことにより、国語の2領域1事項、算数の1つの領域で全国・全道の平均正答率を上回ったと考えられる。
町全体で、読書と書く活動を重視した取組を進めたことにより、授業時間以外に1時間以上読書したり、最後まであきらめずに文章で書く問題に取り組んだりしたと回答した児童の割合が全国・全道を上回ったと考えられる。
町で、ICT支援員を配置しICT機器を活用した教育活動の充実に取り組んだことにより、学習の中でICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した児童の割合が全国・全道を上回ったと考えられる。

中学校
町内の中学校において、学ぶ意欲を継続できるような展開を工夫した授業改善を進めたことにより、難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していると肯定的に回答した生徒の割合が全国・全道を上回ったと考えられる。
町全体で、書く活動を重視した取組を進めたことにより、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりしていると肯定的に回答した生徒の割合が全国・全道を上回ったと考えられる。
町で、ICT支援員を配置しICT機器を活用した教育活動の充実に取り組んだことにより、学習の中でICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した生徒の割合が全国・全道を上回ったと考えられる。

【今金町の学力向上策】

- ◎ 家庭学習の手引の改訂やエッセイコンテストへの児童生徒の全員参加、町内教員を対象とした授業改善に係るアンケートの実施等町の施策と連動した小中学校の取組の推進
- ◎ 小学校第5・6学年児童と中学校生徒の持ち帰りでの端末活用やICT教育推進会議による取組の共有など調和のとれたICT教育の推進
- ◎ 今金町教育研究会による中学校1日体験入学の実施と小中学校教員が異校種に乗り入れする授業の推進

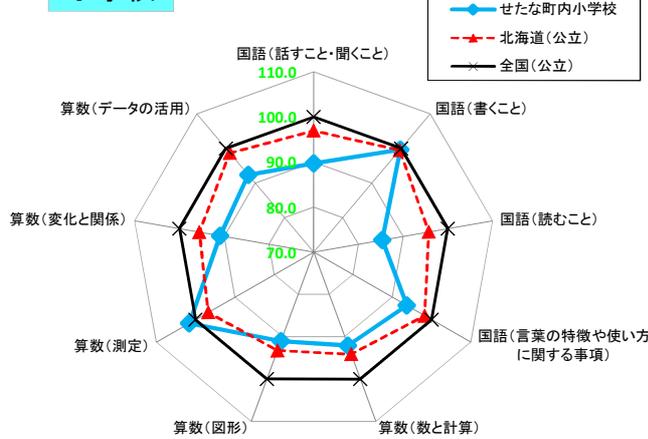
■せたな町内の状況及び学力向上策（小学校数：4校、児童数：43人）（中学校数：3校、生徒数：37人）

【教科全体の状況】

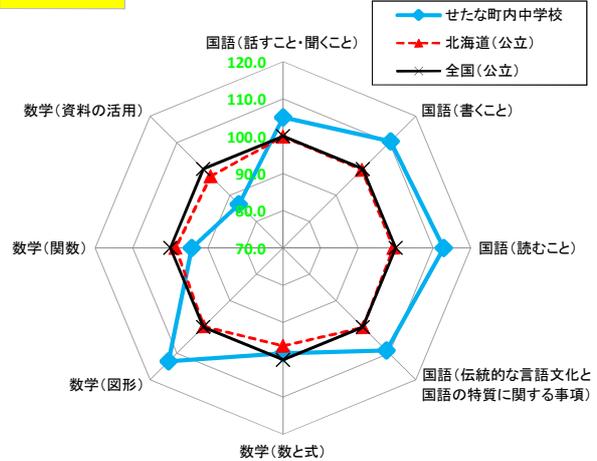
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	60	70
算数・数学	65	56

小学校

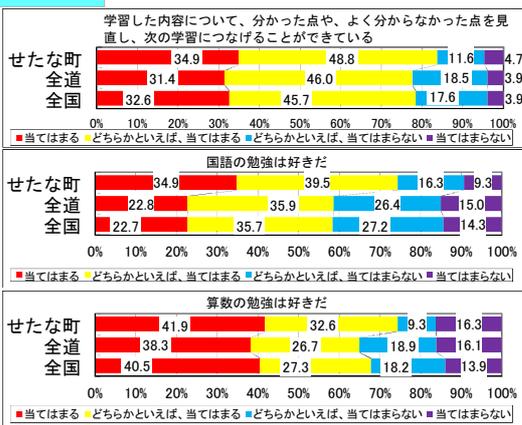


中学校

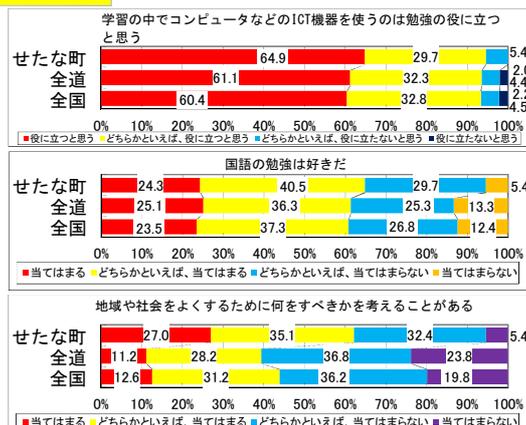


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
町内の各小学校において、全国学力・学習状況調査等を活用した要因分析に基づく児童の実態を踏まえた授業改善を進めたことにより、算数の1つの領域で全国・全道の平均正答率を上回ったと考えられる。
町内の各小学校において、主体的・対話的で深い学びの実現を目指したことにより、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると肯定的に回答した児童の割合が全国・全道を上回ったと考えられる。
町内の各小学校において、学ぶことに興味をもち、楽しみながら学習できる環境づくりを進めたことにより、国語や算数の勉強は好きと肯定的に回答した児童の割合が全国・全道を上回ったと考えられる。

中学校
町内の各中学校において、全国学力・学習状況調査等を活用した要因分析に基づく生徒の実態を踏まえた授業改善を進めたことにより、国語の全領域・事項と数学の1つの領域で全国・全道の平均正答率を上回ったと考えられる。
町内の各中学校において、学ぶことに興味をもち、楽しみながら学習できる環境づくりを進めたことにより、国語の勉強は好きと肯定的に回答した生徒の割合が全国・全道を上回ったと考えられる。
町内の各中学校において、キャリア教育やふるさと学習の充実を図ったことにより、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあると肯定的に回答した生徒の割合が全国・全道を上回ったと考えられる。

【せたな町の学力向上策】

- ◎ 前後期に分けた「学力向上改善プラン」の作成や「生活リズムチェックシート」等を活用した生活習慣の確立
- ◎ GIGAスクール構想に基づく1人1台端末を中心としたICT機器の活用による学習環境の充実とプログラミング教育の推進
- ◎ 小・中学校長の同校区内における学校運営協議会への参加による課題や求められる資質・能力の共有